

令和6年度彩の国あんしんセーフティネット事業

就労支援担当者研修

実施日	令和6年6月18日(火)
参加者	45名 (実施施設担当者・市町村社協担当者・ 自立相談支援機関の担当者)
講師	○障害者就業・生活支援センターCSA 宮崎氏 ○埼玉県福祉人材センター 片桐氏
実践報告者	① 江南愛の家 新井氏 深谷若者サポートステーション 清水氏 ② 岩槻名栗園 根岸氏 ジョブアシストセンター 並木氏



グループワークの様子

内容

実践報告では、順調に体験し施設に就職が決定した事例と、本人の様子から対応に苦慮した事例の2パターンをお話しいただき、グループワークで、支援の良かった点や感じた悩みについてそれぞれ意見交換を行いました。

また、若者サポートステーションや福祉人材センターとの連携についても説明がありました。

【宮崎氏のお話】

「自己評価」と「他者評価」のギャップを埋めることこそが、支援の本質になる。

ギャップの原因として考えられることは…

- ① 助言や支援を拒否している
- ② 苦手な状況を回避できない
- ③ 他者に援助を求められない

どのように認識しているのか、本人の言い分を否定せず確認する。どこに原因があるか探り、繰り返し認識のすり合わせを行い、方向性を共有していく。本人が気づきを得られるように提案や助言を行う。

参加者の声

- ・目的やチーム支援としての役割などを知ることができてよかった。
- ・本人の考えを聞くこと、受容してすり合わせの大切さを再確認した。
- ・事例を聞くことで、実際の就労支援での悩みや大変さを理解することができた。また、体験を通じて支援やその方の方向性が明確になり、支援の方針が立てやすくなったと感じた。